

### 3 学年 音楽科学習指導案

日 時 平成20年10月9日(木)

場 所 音楽室

学 級 3年B組

指導者 教諭 村山和代

1 題 材 名 合唱の表現を楽しもう

教材名 「HEIWAの鐘」

2 題材の目標

- (1) 歌詞の内容や曲想、美しい言葉の表現、声部の役割を生かした全体の響きに関心を持ち合唱表現をする
- (2) 歌詞の内容や曲想、美しい言葉の表現、声部の役割を生かした全体の響きを感じ取り、合唱表現を工夫している。
- (3) 歌詞の内容や曲想、美しい言葉の表現、声部の役割を生かした全体の響きを理解し合唱表現をする。

3 題材について

本題材は、本校の行事の一つである「飛翔祭」で行われる合唱コンクールとの関連を考え設定されているものである。上記の教材を中心に、表現の基礎的な能力を定着させ、豊かな表現を目指すものである。中学生段階は心身の発達が著しいため、一人ひとりの生徒がもつ音楽に対するイメージや曲想を尊重し、生徒が主体的に表現方法や表現形態を選択していく学習形態が重要と考える。よって、共同学習の考えが授業全体に浸透し、一人ひとりが主体的に自らの役割に関与し、集団の切磋琢磨によって、合唱の表現を練り上げて行く楽しみを味わわせたい。

学習指導要領の第2学年及び第3学年の内容A「表現」(1)によると、歌唱表現を通して、ア「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい歌唱表現を工夫すること」、イ、「曲種に応じた発声により美しい言葉の表現を工夫して歌うこと」、エ「声部の役割を生かし全体の響きに調和させて合唱や合奏をすること」とある。

ア、については、「曲想」とは楽曲固有の表情の味わいのことであり、それは様々な音楽の諸要素のはたらきによって生み出されているものである。また、「歌詞の内容」には、意味的な内容だけでなく、その背景にある情景や心情なども含まれる。生徒自身が歌詞の内容や曲想を感じ取ることによって、自己のイメージや感情を膨らませ、その過程を経て、表現の工夫をする音楽活動につなげることが大切と考える。

イ、については、生徒が詩を読んだときに、「言葉」のもつ意味を考えイメージし、表現方法を追求していく過程が必要である。どのようにすれば「言葉」をより豊かに表現することができるか意識した学習に発展させていきたい。

エ、については、「声部」は歌声の声部だけでなく、伴奏も役割をもった声部のひとつである。また、「全体の響き」とは、各声部が合わさって生み出される総合的な響きを指す。自分が担当する声部がどのような役割を持っているかを感じ取らせるとともに、その役割を果たすためには、どのように表現をすればよいかに気づかせ、各自が表現を工夫することが大切である。そして、さらに全体の響きとのかかわりを感じ取らせる必要がある。

#### 4 生徒の実態

本学級は、学習に対してまじめに取り組む生徒が多い。表現活動においては、パート内で意見交換をし、積極的に発言する生徒が増えつつある。授業の始まりは、教科リーダーやパートリーダーが指示を出し進めることができる。1学期の様子から、音楽的な基本内容が定着していない部分が見られ、楽曲から得られる楽譜上の記号や拍感やリズムなどについても、基礎的内容として理解させながら学習を進めていくことが今後、表現の工夫に迫っていく場面で必要であると考えられる。

#### 5 本題材における、「教えあい・学びあい活動」について

音楽の授業では、音楽が固有に持っている味わいを感じ取り、表現を工夫する力を身につけさせ、生涯にわたる音楽活動の基盤とすることができるような能力を育成しなければならない。そのためには、音楽的な基礎・基本の定着を図る必要がある。腹式呼吸や発声、読譜力、音楽的諸要素の工夫を感じ取る活動などを、毎時間、短時間のグループワークの中で、少しずつ積み重ねていくことで、問題解決にあたり、価値を見出していくことをねらいとしている。また、自分が音楽を表現したい、このように表現したいという感情や欲求を生み出せるように、全体の場で意見交換を随時取り入れ、自分たちの表現に対して、発見する・確かめ・深める・追求する・継続するなどといった課題解決的な意見交換の流れの展開を工夫していけるようにしたい。

#### 6 題材の評価規準 「A 表現・歌唱」

観点1 音楽の関心・意欲・態度	観点2 音楽的な感受や表現の工夫	観点3 表現の技能
(1) 歌詞の意味や背景にある情景や心情、歌詞の構成に関心を持ち、自己のイメージや感情を生かして合唱表現することに意欲的である。	(1) 歌詞の意味や背景にある情景や心情、歌詞の構成を理解し、自己のイメージや感情を生かして合唱表現を工夫している。	(1) 歌詞の意味や背景にある情景や心情、歌詞の構成を生かして、自己のイメージや感情を膨らませて合唱表現をする技能を身につけている。
(2) 声部の役割と全体の響きに関心を持ち、曲にふさわしい合唱表現をしようと意欲的である。	(2) 声部の役割や全体の響きの調和を感じ取り、曲にふさわしい合唱表現を工夫している。	(2) 声部の役割や全体の響きに調和させて、合唱表現をする技能を身につけている。

#### 7 指導計画における具体的評価規準

時	学習目標	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の能力
1	曲の雰囲気を生かして歌おう	歌詞の意味、背景にある情景や心情、歌詞の構成に関心をもち、合唱表現することに意欲的である。	歌詞の意味、背景にある情景や心情、歌詞の構成を理解し、合唱表現を工夫している。	歌詞の意味、背景にある情景や心情、歌詞の構成を理解し、合唱表現する技能を身につけている。
2	言葉の流れとリズムの特徴を感じ取って表現しよう	言葉の抑揚、アクセント、リズム、語感による特性、濁音、鼻濁音などの表現の仕方に関心を持っている。	言葉の抑揚、アクセント、リズム、語感による特性、濁音、鼻濁音などの表現の仕方を感じ取って合唱表現を工夫している。	言葉の抑揚、アクセント、リズム、語感による特性、濁音、鼻濁音などの表現の仕方を生かして合唱表現する技能を身につけている。

3 本 時	言葉の抑揚、強弱、旋律の動きを生かした表現の工夫を感じ取ろう	歌詞の内容により生まれる曲想に関心を持ち、自己のイメージや感情の根拠を歌詞や曲の仕組みの中に見つけることに意欲的である。	歌詞の内容により生まれる曲想を感じ取り、自己のイメージや感情の根拠を歌詞や曲の仕組みの中に見つけている。	歌詞の内容により生まれる曲想の自己のイメージや感情を生かして合唱表現する技能を身につけている。
4	声部の役割を理解して表現の工夫をしよう	声部の特徴と役割、曲の仕組みに関心を持ち、合唱表現を工夫することに意欲的である。	声部の特徴と役割、曲の仕組みを感じ取り、合唱表現の工夫をしている。	声部の特徴と役割、曲の仕組みを生かして合唱表現を工夫する技能を身につけている。
5	混声合唱の響きを感じ取ろう	全体の響きの調和に関心を持って合唱表現することに意欲的である。	全体の響きの調和を感じ取って合唱表現を工夫している。	全体の響きの調和を感じ取って合唱表現を工夫する技能を身につけている。

## 8 指導の評価と展開

### (1) 本時の目標

- ① 言葉の抑揚、強弱、旋律の動きを生かした表現に関心を持ち、意欲的に合唱表現に取り組む。
- ② 言葉の抑揚、強弱、旋律の動きを生かした表現を感じ取り、イメージや感情の根拠を持って合唱の工夫をする。
- ③ 言葉の抑揚、強弱、旋律の動きを生かした表現を理解し、イメージや感情を生かして合唱表現する。

### (2) 本時の具体的評価規準

	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	努力を要する生徒への手立て
観点1 音楽の関心・意欲・態度	歌詞の内容により生まれる曲想に関心を持ち、積極的に意見を出し、自己のイメージや感情の根拠を歌詞や曲の仕組みの中に見つけることに意欲的である。	歌詞の内容により生まれる曲想に関心を持ち、自己のイメージや感情の根拠を歌詞や曲の仕組みの中に見つけることに意欲的である。	言葉一つひとつの持つ意味を考えさせながら、イメージを膨らませたり、楽譜の読み方を確認する。
観点2 音楽的な感受や表現の工夫	歌詞の内容により生まれる曲想を感じ取り、自己のイメージや感情の根拠を具体的に表現し、歌詞や曲の仕組みの中に見つけている。	歌詞の内容により生まれる曲想を感じ取り、自己のイメージや感情の根拠を歌詞や曲の仕組みの中に見つけている。	楽譜上の記号などを確かめながら、歌詞とのつながりに気づかせる。
観点3 表現の能力	歌詞の内容により生まれる曲想の自己のイメージや感情を積極的に生かして、工夫しながら合唱表現する技能を身につけている。	歌詞の内容により生まれる曲想の自己のイメージや感情を生かして合唱表現する技能を身につけている。	周りの声をよく聴くように促し、曲の雰囲気からイメージをつかませて、歌詞を丁寧に歌わせる。

(3) 本時の展開

段階	学習内容	学習活動	教師の指導・支援	◎評価・留意点
導入 10分	1 発声練習  2 合唱  3 課題の確認	1 チャイムと同時に発声練習の体感をし、声の響きを感じ取る。  2 「HEIWAの鐘」を合唱する。(録音)  3 学習の見通しを確認し、課題を把握する	・発声は合唱の基礎であることを意識させる。  ・前時までの学習を想起させ、改善点を探りながら歌う。本時の課題につなげられるように配慮する。	・すすんで発声練習をしようとしているか <関心・意欲・態度> (観察)
言葉の抑揚、強弱、旋律の動きを生かした表現を感じ取り、「HEIWAの鐘」を合唱しよう				
展開 30分	4 課題の追求	4 C～Dの部分の表現の工夫をする (1) 録音した自分たちの合唱を聴く ◎歌詞からイメージされる合唱の表現になっているか聴き取る ◎どのように表現したいか自分の思いを持つ。 (2) 旋律の動きを確認する ◎ユニゾン→ハーモニー→掛け合い→ハーモニー(ビート感)の動きを確認する。 (3) 強弱の変化を確認する。 ◎強弱のつけ方について、自分の考えを学習プリントに書き込む。 (4) 曲にふさわしい表現の工夫に迫っていく。 ◎自己のイメージや感情の根拠を具体的に示し、工夫しながら表現する。	・自分たちの表現を確認し、それぞれの学習活動の中で、個々が感じたことを発表しあい、認め合うことで、自分の考えが深まることを味わわせる。	・意見を交わしていく中で、表現の工夫に迫る発言をしているか <感受、工夫> (観察・学習プリント)  ・全体場で意見を発表し、よりよい表現をめざそうとする意見を発表しているか。 <感受、工夫> (観察・学習プリント)
終末 10分	6 学習のまとめ <次時の課題発見>  7 自己評価 <振り返り>	6 合唱する (録音→聴取)  7 学習プリントに授業を振り返って、良かった点、今後に向けてを書く。	・言葉の語感を大切にはっきり発音することをアドバイスする。  ・全体のバランスや音程や音色、表現の仕方などについて改善点を記録し、今後の表現の改善に役立たせる。	・表現の工夫をしながらか合唱することができたか <表現の技能> (観察・学習プリント)  ・次時の課題を見つけたことができたか。 <関心・意欲・態度> (学習プリント)